

児童文化研究室（是澤優子先生）

▶是澤先生はどのような研究や活動に取り組んでいますか？

これまで私は、子どものために創出された児童文化財（絵本、物語、おもちゃ、テレビ番組など）を、歴史的な視点から研究してきました。そこから児童文化の源流を探り、子ども像を探究することが研究の目標です。自分がそれまで見えていなかった物事の発見や結びつきが明らかになることが、研究する楽しさにつながっています。

大学では児童文化領域（子どもの成長発達に関わる文化）の授業を担当しています。児童学を学ぶ学生には、〈子どもを慈しみ、その命を守る〉という視点がなによりも必要だと思っています。子ども生育環境は時代とともに変化していくため、児童文化領域から乳幼児を取り巻く文化環境の現状やその歴史的変容、現代的課題を捉えることで、「どのような文化が子どもの今と未来の幸せ支えているのか」を深く考えることにつながります。また、児童文化を歴史的に探ることで、児童文化財、児童文化運動などに込められた社会の価値観、その時代の子どもの実態、子どもと大人の関係性などに迫ることが可能になります。

▶この研究室やゼミ（4年次）のことについて教えてください。

児童文化研究室のゼミには、絵本、おもちゃ、昔話、アニメーション、遊びなど、児童文化財の歴史や魅力について研究したい学生が集まります。例えば、絵本の場合、作家作品研究・絵本の内容分析・読み聞かせの意義、というように様々なアプローチが可能です。

そこで、ゼミでは受講生同士がそれぞれの研究テーマについて発表や討論を重ねることで問題の所在を共有し、広い視野で研究対象を見つめ、歴史的視点を持ちながら深く掘り下げられるように心がけています。演習形式で進めるゼミは、資料収集・フィールドワーク・意見交換などにおける学生自身の積極的な態度と、研究課題を意欲的に探究する姿勢が発揮される場となっています。このような過程を通して、学生たちは〈子どものための文化〉に関する卒業論文を学びの集大成として書きあげます。



▶もっと知りたい方へ

著書・論文

『子どもたちの文化史－玩具にみる日本の近代』 臨川書店 2019年（共著）

『新版 児童文化』 ななみ書房 2016年（共著）

『子ども像の探究－子どもと大人の境界』 世織書房 2012年（共著）

など